

令和7年度第1回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会 地域連携部会 会議録

日 時： 令和7年10月23日（木）午後2時00分から午後3時20分まで

場 所： 市役所地下1階 団体研修室

出席者： 遠藤善治（障がい福祉課長）、

三浦健（鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会会長）、

菊地謙（鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会副会長）、

青木晃代（障がい者の働くを支えるチーム）、

馬場武士（地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム）、

山根清孝（障がい者のつながりを支えるチーム）、

竹内直人（障がい分野の情報を発信・啓発するチーム）、

欠席者： 小宮響子（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）、

武藤優子（医療的ケア児支援チーム）

事務局： 【鎌ケ谷市障がい福祉課】 高橋主幹、加藤

【鎌ケ谷市基幹相談支援センターえがお】 渡辺、坂巻、恩田、岩室

傍聴者： 0名

添付資料： ・式次第

・各テーマ別チーム会議における検討状況の報告

1 「地域連携部会」部会員一覧

2 地域連携部会 テーマ別チーム会議参加者一覧

3 自立支援協議会の組織体制

4 テーマ別チーム会議資料

① 障がい者の働くを支えるチーム

② 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム

③ 障がい者のつながりを支えるチーム

④ 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

⑤ 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

⑥ 医療的ケア児支援チーム

・本日の委員の出席者数と傍聴者数の報告

本日の委員の出席者7名、会議成立の定則数の過半数を超えている旨を報告

・部会長挨拶

・部会員自己紹介

1 地域連携部会について

事務局より資料「自立支援協議会の組織体制」を基に地域連携部会について説明した。

2 各テーマ別チーム会議における検討状況の報告

鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）の各テーマ別チームのリーダーより検討状況を報告した。

（1）障がい者の働くを支えるチーム

企業向けインタビューを考えている。次回のチーム会議には障がい福祉課 湯浅氏にご参加いただき企業側のお話を伺う。その後、企業へのインタビュー依頼文を作成する予定である。

就労系事業所ガイドブックについては、令和7年度版を更新作業中である。

（2）地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム

前回の移動支援の研修が好評だった。今年度も「たからばこ」に依頼して実施する予定である。前年度の研修参加者にウェブアンケートを行った。今年度は、研修の終了後に求人に関する話ができるよう、事前に求人募集があるか確認する。参加費8000円を予定している。講師料については自立協に諮りたい。移動支援通学支援が実際どのように使われているか後追いをしている。現状、問合せはあるが利用者はいない。どうしたら使いやすくなるか検討する。

（3）障がい者のつながりを支えるチーム

ライフステージの移行期における「つながりの困難さ」を今年度のテーマにしている。児童期から障がい福祉へ、障がい福祉から高齢者福祉への円滑な移行を支援するため「65歳（高齢者）」と「18歳（児童）」の2つを検討する。65歳になる1年前の移行カンファレンス実施、保護者向けツールの必要性、フローチャート作成等を具体的に検討し進めている。

（4）障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

令和7年10月25日（土）に「鎌ケ谷市障がい福祉サービス事業所等合同説明会～福福フェア～」を開催する。今回で3回目になるので、アンケート結果等をその後のチーム会議で検証し、来年度以降どうするか考えていく。イベントの本来の目的である「情報発信」のあり方についても再度検討していく意向である。

（5）精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

「つながるシート」等を実際に活用してもらうよう市内の計画相談事業所、介護保険分野のケアマネジャー、精神科病院（シート作成に関わった船橋市内の病院ワーカー含む。）、訪問看護ステーション等に報告周知した。事例を基に活用方法を検討する場を11月に設ける。今年度は周知と調査に重点を置く。調査については、市民活動推進センターの影山氏協力のもとグループワークを実施した。ドキュメンタリー映画「どうすればよかったか」の上映が検討課題となっている。

(6) 医療的ケア児支援チーム

令和6年4月より蓄電池の購入に対する助成が開始となり、周知のために特別支援学校、放課後デイサービス事業所等にチラシを配付し、市の広報の防災週間特集にも記事を掲載した。

医療的ケア児アンケート調査について、対象者32名のうち回答は9名だった。

医療的ケア児コーディネーターの体制を整える方向で検討している。千葉県医療的ケア児等支援センターから担当者を招き意見をもらい、コーディネーターに期待する役割等を整理する。

質疑応答

会長

映画上映の費用及び実施時期は今年度中を予定しているのか教えてほしい。

事務局

上映に50,000円。その他チラシ等の費用、映画監督を北海道から呼び寄せる交通費を含め200,000円程度かかる。チームメンバーに当事者の家族がいることもあり、費用のことも含め上映会の企画詳細を検討中であり、上映は来年度の予定である。

部会員

各チーム間の連携を促進する「仕組み化」ができれば良いと思う。他チームの活動内容が見えにくく、メンバー間の個人的な交流は増えているが意見交換には至っていない。

部会員

複数の各チームがマニュアルやシート作成をしているが、連携して統一化や効率化ができるところがあるのではないかと。各チームから実施したいことの提案が上がっても予算の制約で実現が難しくなっていないか。提案から予算化までのプロセスも教えてほしい。

部会長

各チームが提案する→自立支援協議会の上層部に報告→事務局がその報告を基に財政課と予算交渉を行うという流れである。チームからの具体的な提案がなければ、行政側も予算要求の根拠を提示できないため、各チームからの積極的な提案が極めて重要である。

事務局

地域連携部会が本会議とチーム会議を結びつける機能という想定で作られているので、この場で活発に議論してほしい。厚生労働省が自立支援協議会の活性化を推進するなか、鎌ヶ谷市の取組（8年前に導入）は、形骸化を防ぐための試みとして千葉県内でも注目を集めている。

副会長

医療的ケア児のアンケート回答には、課題が沢山つまっていると思う。アンケート実施後の対応が重要で「意見を出しても無駄だ」と思られないようにするべき。習志野市の自立支援協議会では、

年1回テーマごとに部会を開催し、年度末に市への提言書として提出する仕組みが確立されている。毎月の部会や運営委員会の開催など多くのリソースを要すが、市側が提言を真摯に受け止めるため10年単位で継続され成果も出ている。

部会員

就労系事業所が主体となる連絡会が発足した。この連絡会は現場の意見を吸い上げる場として機能している。来月開催される「福福フェア」についても、参加後の意見を連絡会で集約しチーム会議で報告する予定である。現場からは多くの重い課題が上がってくる。重要なのは、地域連携部会や上層部だけで議論するのではなく、その内容を現場の管理者やスタッフが考えるきっかけとして展開していくことだと思う。

部会員

自立支援協議会の予算を同じチームが連続して使うことは問題ないのか。研修会を恒例化するのであれば、切り離して別のかたちにした方がよいのか。

部会員

研修会が固定化されると、他チームが新たな活動をしたい時に予算が不足する懸念がある。研修費を別枠で確保した上で、協議会全体の予算を引き上げることができないか。

部会長

研修参加後の就労者数など、具体的な成果を示すことができればアピールする上でも有効であると思う。協議会としては、引き続き研修事業として持続可能なかたちを検討していく。

3 次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の議題について

事務局

令和7年10月31日開催予定の本会議の議題は、以下2点とする。

- ・ガイドヘルパー研修の講師料の予算費用について
- ・日中サービス支援型グループホームの評価について

→異議なし

部会長

ほかになければ、閉会とする。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和7年11月6日

氏 名 青木晃代 _____

氏 名 山根清孝 _____